

★ 操 作 方 法 ★

パソコンでは、上下スクロール、または Acrobat のページ送りのボタンで、次のページをご覧くださいいただけます。

※ iPad では、上下スクロールで閲覧いただけます。

守るように
ゆっくりと歩いた

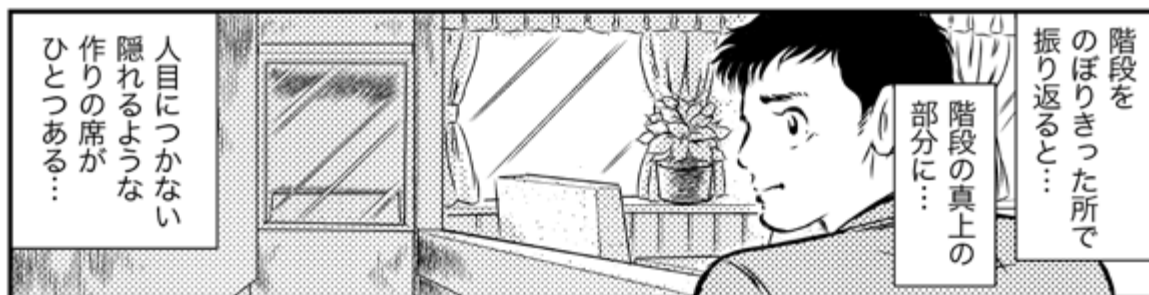


でも
大切な時間を

青春の条件

エピソード4
やましたゆきお





一度だけあの席で
マンガのネームを
取っている



石森章太郎を
見たことがある

薄暗い店の中で
そこだけ明るくなり

仕事をしている
姿がハッキリと
ボクには見えた



ボクはすみっこの
席にかくれて
その姿をずっと
ただ見ていた…



それからボクは
よくこの店に
来るようになった

予約席

でも
テーブルにはいつも
予約席のフダが
乗っているだけだった



高校を卒業して
マンガ家になると
言って進学もせず

デザイン
専門学校も
一学期で
行かなくなり

マンガ家の
アシスタントも
半年でやめた…



今のボクは
マンガの
下書きを
少年ジャンプの
編集部へ
持ち込んで
突き返され

それを直しては
また返される
その繰り返しだ



ボクは石森を気取って
この喫茶店で
マンガのネームを
書いてみる…



石森が書いた
マンガ家入門の
龍神沼のコマドリを
真似てみる…

…でもボクは
石森にはなれない…

ホット
コーヒー
です



ボクは砂糖を五杯入れ
ミルクもたっぷり入れ
ただのあまい泥水になった
コーヒーを流し込む…

なんで
コーヒーって
こんなに
まずいんだ…



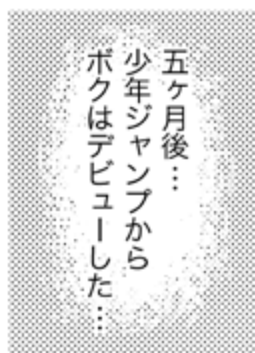
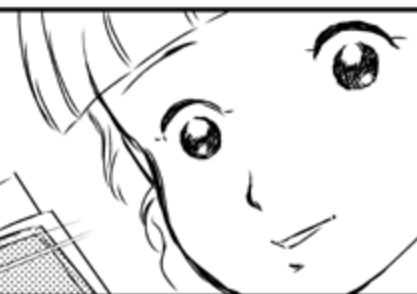
たばこに
火をつける…



これも
マンガ家
気取りだ…







※この物語はフィクションで、特定の個人・団体とは関係ありません。